

ステップ2

「仲間を広げる」 ～「親同士」のつながり～

☆このような機会
活用できます！

☆各種会合、保護者の集まりで活用できます。

- 学年・学級懇談会や地区懇談会
- 部活動の各部ごとの集まり
- 就学時健康診断や1日体験入学
- PTA研修会やPTA役員会
- 学童保育の保護者の集まり
- 子ども会の保護者の集まり

※参加者同士がこれまで以上に、
お互いに「親しみ・つながり」を
持つことができます。



【プログラム8:

アイコンタクトで意思表示】

☆ねらい：アイコンタクトや身振り手振り等を使って活動する活動を通して、自分の意志を表す有効な手段であることに気づき、これからの子育てや周りの人との関係づくりに役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全員で動く、動ける場所が必要（教室でもよい）
準備物	○色カード ・（3～4色、参加者1人に1色1枚） ・会場掲示用の色カード（1枚ずつ）
主な活動	①アイコンタクトや身振り手振りを使って動く。 ②感想を紹介する。 ③いろいろな「表情」をする。
気を付けること	○場所の広さや安全面に対する配慮をする。 ・参加者の人数に対しての広さ ・置いてある荷物 等
備 考	○用いるカードは、「色」でなくても、動物や果物等のカードでもよい。
スタート編との 関連	なし

【プログラム8：アイコンタクトで意思表示】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
12分	全体	<p>2. 全員で「アイコンタクトで意思表示」をする。【9分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○進行役は、参加者の背中（眉間）に1枚の色カードを貼る。 本人には、色を知らせない。</p> <p>○会場にも同じ色カード（大）を1枚貼る。</p> <p>○進行役の合図で、参加者は進行役の合図で、話さずアイコンタクトや身振り手振りで意思表示をし、自分の色を考える。</p> <p>○参加者は、会場に貼られた自分の色の所に集まる。</p> <p>○全員がそろったら、自己紹介をする。</p> </div> <p>全体 (2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつける。 ・困っている人には、みんなで助け合うように促す。 <p>全体 (3) 進行役の合図で行う。〈7分〉</p>
	全体	<p>3. 感想を紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>①「いろいろな表情」をする。 〈1分〉</p> <p>○「嬉しい顔」「怒った顔」「笑い顔」「集中している顔」を進行役の言葉に合わせてやってみる。</p> <p>全体 ②まとめを聞く。 〈1分〉</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>・自分の気持ちを伝えるには、「ことば」が有効な手段である。 また、アイコンタクトや表情、身振り手振りも自分の意志を伝える手段として有効である。</p> </div>

【プログラム9：頼って信じてウォーキング】

☆ねらい：2人組で誘導役と歩く役を交代しながら行う活動を通して、互いに信頼しあえる関係を作るには、コミュニケーションが必要であることを再認識し、これからの生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	2人組で動く、動ける場所が必要（教室でもよい）
準備物	○ハンカチ等（参加者が目隠しをするために使う）
主な活動	①2人組で、誘導する役、目隠しで歩く役を交代しながらウォーキングをする。 ②動き方を変えて、もう一度行う。（交代して行う。） ③感想を紹介する。
気を付けること	○ブラインドウォークには本来いくつかのねらいがあるが、本プログラムではコミュニケーションの重要性を認識することが主目的であることを参加者に理解させる。 ○場所の広さや安全面に対する配慮をする。 ・参加者の人数に対しての広さが適切か考える。 ・動く場所に置いてある物で危険が予想されるものは取り除く。 ・速さにとらわれないように気を付けさせる。
備 考	○ハンカチ等がない場合は、目を閉じて行うことができる。
スタート編との関連	なし

【プログラム9：頼って信じてウォーキング】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
12分	全体	<p>2. 全員で「頼って信じてウォーキング」をする。【10分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○参加者は2人組になる。(誘導役と歩く役) ○歩く役は、ハンカチ等で目隠しをする。 ○もう1人の誘導役は、手をつなぎ、会場を1回りする。 ○1回りしたら、交代する。 ○2人とも1回目が済んだら、2回目を行う。 ○2回目は、1回目と違うルートで1回りする。 </div> <p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <p>○誘導役は、ペアが他の参加者や机等にぶつからないように声をかけたり、つないだ手を握ったりしながら誘導する。</p> <p>○会場に危険な物がないように安全面を確認する。</p> <p>ペア (3) 進行役の合図で行う。〈8分〉</p> <p>○「誘導役」、「歩く役」を交代しながら2回ずつ行う。</p> <p>○時間が不足する場合は1回で終了してもよい。</p>
	全体	<p>3. 感想を紹介する。【2分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が安心できるような関係を作るには、コミュニケーションが大事であり、自分だけの思いを伝える一方通行ではなく、双方から意思表示をすることが必要である。 </div>

【プログラム10:

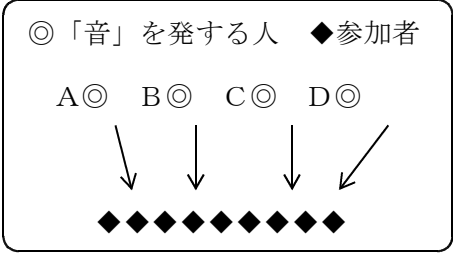
何と言ったかな？きいて、きいて！】

☆ねらい：言葉当てゲームを通して、相手が何を伝えたいかを理解するには相手を見てしっかり聞くことが大事であることを再認識し、これからの子育てや生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	「聞く」と「聴く」
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループでもできる）
準備物	なし
主な活動	①「何と言ったかな？きいて、きいて！」（言葉当てゲーム）をする。 ②感想を紹介する。
気を付けること	○だれもが知っている「ことば」を出題する。 ○答えを考えるとき、グループで考えるようにすると、「協力し合う」大切さを体感してもらうことができる。
備 考	○進行役対参加者という形態のときは、「ことば」の数だけ「音」を発する人が必要になるので、参加者に「話し手」役を協力してもらう。 ○グループの中で、「話し手」「聞き手」に分かれたり、グループ対抗で「話し役」「聞き役」に分かれたりしてもよい。 ○3文字の言葉や4文字の言葉など、「言葉リスト」を用意しておくこと、進行がスムーズにできる。
スタート編との関連	プログラム⑥：上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～

【プログラム10：何と言ったかな？きいて、きいて！】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○「聞く」と「聴く」</p>
12分	全体	<p>2. 言葉当てゲームをする。【9分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○「ことば」の数だけ「音」を発する人が必要。</p> <p>○例：「くまもと」→音を発する役4人</p> <p>○1人1文字ずつ割り当てる。</p> <p>(Aさん→く Bさん→ま Cさん→も Dさん→と)</p> <p>○進行役の合図で、「音」を発する4人は、自分の割り当てられた「音」を同時に発する。</p> <p>○参加者は、4人の「音」をしっかり聞き、言葉をつなげ熟語を当てる。</p> <p>※答えは、1人で考えてもよいし、数名のグループで一緒に考えるようにしてもよい。</p> </div>  <p>全体 (2) 進行役の合図で行う。〈8分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数回行う。(文字数の少ない言葉から始めると参加者もわかりやすい) <p>全体 3. 感想を紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を何気なく聞くと、何を伝えたいのか十分わからないことがある。しっかり聴くには、「相手を見て聴く」というと心構えをもつことが大事である。 ・「聞く」と「聴く」のどちらで子どもの話を聞いているだろうか。 </div>

《プログラム10：何と言ったかな？きいて、きいて！》

【補助シート】

[出題に関する留意点]

☆言葉の文字数（「音」）が多くなると難しくなる。

☆促音、拗音、長音が入ると難しくなる。

例：「がっこう」「しゃしん」「カレーライス」

☆1つの熟語の中に同じ「音」が複数入ると難しくなる。

例：「かんばん」「たんぽぽ

《言葉の例》※地域の名前や季節に関する言葉、食べ物等何でもよい。

◇ 3文字の言葉

- | | |
|------|------|
| ・あひる | ・うちわ |
| ・きりん | ・コアラ |
| ・すいか | ・つくえ |
| ・テレビ | ・とけい |
| ・アイス | ・パンダ |
| ・だんご | ・カラス |

◇ 4文字の言葉

- | | |
|-------|-------|
| ・くまもと | ・えんぴつ |
| ・ひまわり | ・おにぎり |
| ・だいこん | ・たいやき |
| ・ネクタイ | ・マラソン |
| ・ハンカチ | ・くわがた |
| ・パソコン | ・まんざい |

◇ 5文字の言葉

- | | |
|--------|--------|
| ・ありがとう | ・くるまえび |
| ・こんにちは | ・カブトむし |
| ・こいのぼり | ・ひなまつり |
| ・ながれぼし | ・ゆうえんち |
| ・ぬいぐるみ | ・あさごはん |
| ・プレゼント | ・シンデレラ |

【プログラム11:

トーク&トーク～すごろくde紹介～】

☆ねらい：すごろくを使って自分を紹介し合うことを通して、互いを知り
互いを認め、子育てに関する思いを共有し、つながりを深める。

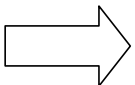
《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	サイコロ、すごろくシート、（それぞれグループ数） コマ（人数分）
主な活動	①すごろくを使って自己紹介をする。 ②感想や印象に残った意見を、他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○「可能な範囲で話すとよいこと」「話せないときは、『パス』をしてもいいこと」を話し、安心感をもって参加してもらおうようにする。 ○全員が同じように話すことができるようにする。（1回につき約30秒程度と決めた方がよい。）
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。
スタート編との 関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ

【プログラム11：トーク&トーク～すごろく d e 紹介～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
17分	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>グル ープ</p> <p>全体</p>	<p>2. すごろくを使って自己紹介をする。【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <p>○サイコロの出た目の数だけすごろくを進め、とまった場所の話題を話す。</p> <p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○可能な範囲で話す。</p> <p>○場合によっては、「パス」をしてもよい。</p> <p>○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で)</p> <p>○誰かが話しているときは、しっかり聴く。</p> <p>(相手を見る、うなづく、微笑む 等も含む)</p> <p>○誰かが話し終わったら、拍手をする。</p> </div> <p>(3) グループごとに始める。〈12分〉</p> <p>・活動の時間を決め、その時間で進んだ所までとする。</p> <p>3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・いろいろなことを紹介し合うことで、お互いが身近に感じられるようになったのではないか。</p> <p>・同世代の子どもをもつ親は喜びも悩みも共有できる。一人で抱え込まないで、これを機に、参加者のつながりを深めていこう。</p> </div>

スタート



好きな食べ物は何？

好きな色は何？

今一番、行ってみたいところは？

グループの人と握手をしよう！

今、ほしいものは？

苦手なこととは？

ストレス発散法は？

最近、どんなことで子どもをほめた？

人生で最もこわかった思い出は？

ラッキー3つ進む

歌を歌うのと聴くのと、どっちが好き？なぜ？

子どもの頃の夢は？

宝くじにあたったら？

苦手な食べ物は何？

本日一番の笑顔を見せてよう！

小学生時代の思い出は？

今、一番やりたいことは？

声を出して笑ってみよう！

ゴール

子育て版

ラッキーチャンス！
誰かがこの枠にとまったら、他の人も話せるよ。話をした人は全員2つ進めるよ。

自由トーク

最近、嬉しかったことは？

子育てで気になることは？

子ども(家族)に一番言いたいことは？

自分が頑張っていると思うことは？

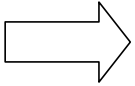
幸せと感じる時は？

朝、どうやって子どもを起こす？

子どものことで、嬉しかったことは？

最近、どんなことで子どもを叱った？

スタート



好きな食べ物
を3つ紹介
しよう。

得意と思
っている
ことは？

今一番、
行ってみ
たいとこ
ろは？

グループ
の人と握
手をしよ
う！

ラッキー！
3つ進む

本日一番の
笑顔を見せ
よう。

小学生時
代の思い
出は？

今、一番や
りたいこ
とは？

声を出し
て笑って
みよう！

幸せと感
じるとき
は？

ストレス発
散法は？

宝くじにあた
ったら？

ゴール

一般版

ラッキー！
3つ進む

人生で最もこ
わかった思
い出は？

言ってほ
しい言葉
は？(誰か
ら、何
と?)

最近、嬉し
かったこ
とは？

★パスもできるよ。
★1回の発言は30秒以内で。

苦手な食
べ物や苦
手なこと
は？

子どもの
頃の夢
は？

呼ばれた
名前(言
い方)は？

今、ほしい
ものを2
つ紹介し
よう。

自分が頑張
っている
と思うこと
は？

歌を歌うのと聴
くのと、どっちが
好き？なぜ？

【プログラム12:

話して！聞いて！

～わいわいがやがやサイコロトーク～】

☆ねらい：サイコロの出た目の話題を話す活動を通して、互いを知り互いを認め、子育てに関する思いを共有し、つながりを深める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	サイコロ、補助シート、（それぞれグループ数）
主な活動	①サイコロトーク（順番にサイコロを振り、出た目の話題を話す。）をする。 ②感想や印象に残った意見を他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○「可能な範囲で話すとよいこと」「話せないときは、『パス』をしてもいいこと」を話し、安心感をもたせる。 ○全員が同じように話せるようにする。（1回につき約30秒程度と決めた方がよい。）
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。 ○参加者の構成や学校・学級、その他実施対象の保護者に合わせて話題は変更することもできる。
スタート編との 関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ

【プログラム12

話して！聞いて！～わいわいがやがやサイコロトーク～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
17分	全体	<p>2. サイコロトークをする。【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <p>○参加者が自分でサイコロを振り、出た目の数の話題について話す。</p>
	全体	<p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○可能な範囲で話す。</p> <p>○場合によっては、「パス」をしてもよい。</p> <p>○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で)</p> <p>○誰かが話しているときは、しっかり聞く。</p> <p>(相手を見る、うなずく、微笑む 等も含む)</p> <p>○誰かが話し終わったら、拍手をする。</p> <p>○参加者のプライバシーにかかわるものは、勝手に他の人に話さない。</p> </div>
	グループ	<p>(3) グループごとに始める。〈12分〉</p> <p>・参加者の属性に応じて話題を工夫する。(補助シート参照)</p>
	全体	<p>3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いが身近に感じられるようになったのではないか。 ・同世代の子どもをもつ親は、喜びも悩みも共有できる。 ・これを機に、参加者のつながりを深めていく。 </div>

話して！聞いて！

～わいわいがやがやサイコロトーク～

◇サイコロトークの進め方と話題

★進め方：参加者が自分でサイコロをふって、出た目の数の話題を話す。

★話題

【Aバージョン：参加者のつながりをもつ、初対面が多い自己紹介型】

サイコロの目の数	話 題
1	好きなもの or すきなこと
2	宝くじがあたったら
3	苦手なもの or 苦手なこと
4	今、欲しいもの
5	子ども（家族のだれか）を一言紹介
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Bバージョン：参加者のつながりを深める、顔見知り仲間型】

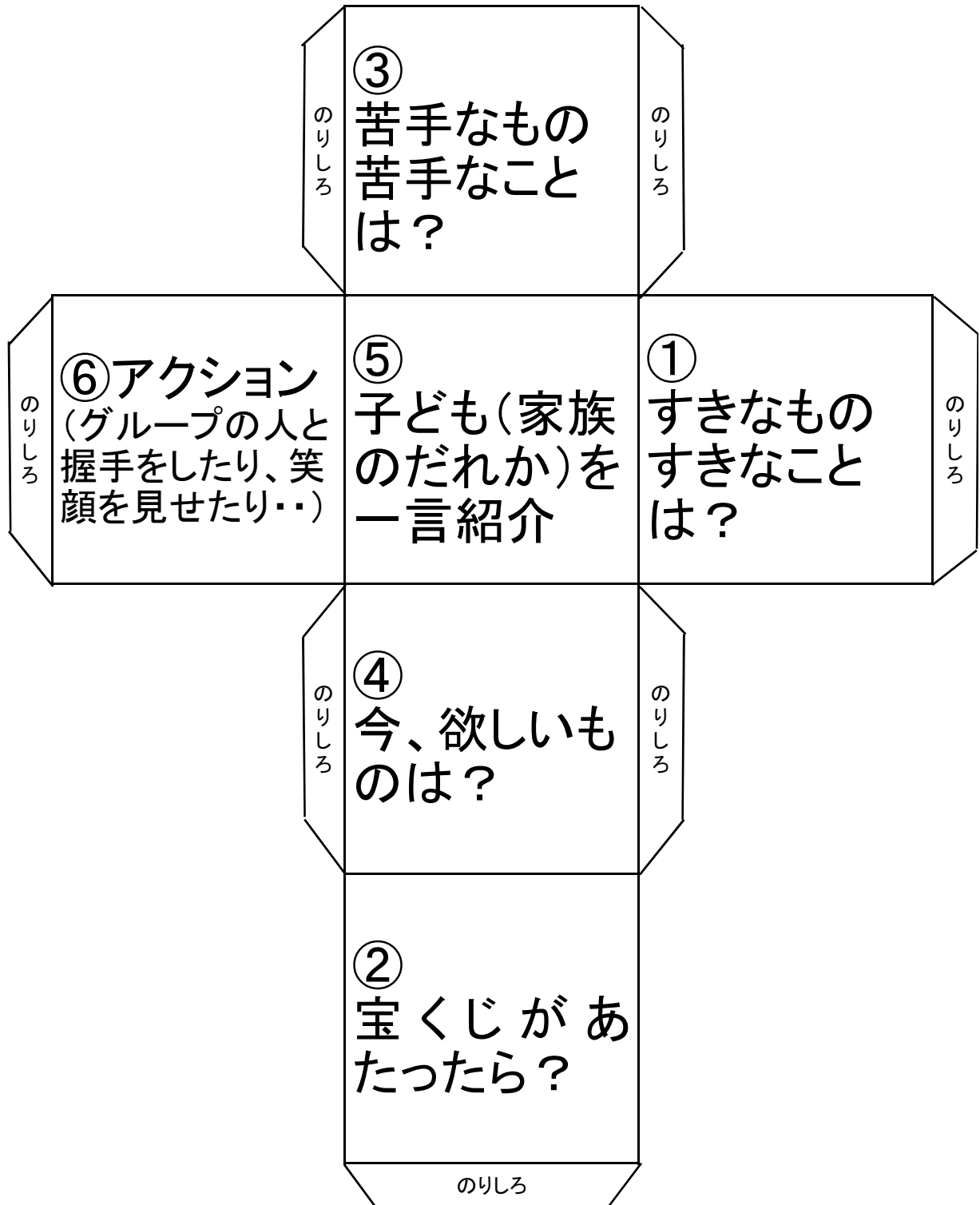
サイコロの目の数	話 題
1	ストレス発散法
2	子どもころの夢
3	今後、やりたいこと
4	これまでの思い出（いつのころでも、どんなことでも・・・）
5	最近、楽しかったこと、嬉しかったこと
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Cバージョン：子育てに関する喜びや悩みを共有する、子育て仲間型】

サイコロの目の数	話 題
1	子どものことで嬉しかったこと
2	子育てで、気になること（悩んだこと）
3	子どもに望むこと
4	子どものことで悩んだらどうする？
5	子どもから見て自分はどんな親だろう
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Dバージョン：参加者に事前に話したい話題を聞き、テーマを設定するオリジナル型】

【Aバージョン】



※外線を切り、のりしろにのりを付けて組み立てるとサイコロができあがります。

【Bバージョン】

		③ 今後、やりたいことは？	
	⑥アクション (グループの人と握手をしたり、笑顔を見せたり…)	⑤最近、楽しかったことや嬉しかったことは？	① あなたのストレス発散法は？
		④これまでの思い出 (いつのころでも、どんなことでも…)	
		② 子どものころの夢は？	

※実線をはさみで切り組み立てると、サイコロができあがります。

【Cバージョン】

		③ 子どもに望 むことは？	
	⑥アクション (グループの人と 握手をしたり、笑 顔を見せたり…)	⑤ 子どもから 見て自分は どんな親だ ろう？	① 子どものこと で、嬉し かったことは？
		④ 子どものこと で、悩んだら どうする？	
		② 子育てで気 になること (悩んだこと) は？	

※実線をはさみで切り
組み立てると、サイコ
ロができあがります。

【プログラム13:

あなたはどのように考えますか？

～1枚の絵から広がるイメージ～】

☆ねらい：場面絵を見ていろいろな想像をする活動を通して、特定の見方でなく、多様な見方があることに気付き、子育てについても多様な見方を大切にする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な見方
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4名がよい）
準備物	○「場面絵」 ・「形合わせ」を行うときは、グループ数の2倍の数（2人に1セット） ・「絵から考える」場合は、グループ数
主な活動	①場面絵を使った形合わせをする。（ジグソーパズル） ②絵を見て考える。 ③考えたことを他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○正解、不正解ではなく、参加者の多様な見方を引き出すよう配慮する。
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。 ○講座の時間がとれない時は、完成している場面絵から考える方法がある。その時、「全体提示用の拡大絵」や「各グループ（もしくはペア）に1枚ずつの絵」を用意したほうが効果的である。
スタート編との関連	プログラム③：子どもの気持ちと親のかかわり

【プログラム13 :

あなたはどのように考えますか？～1枚の絵から広がるイメージ～】

時間	形態	講 座 の 流 れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○多様な見方</p>
17分	全体 ペア グル ープ 全体	<p>2. 形合わせをし、1つの場面絵から考える。【11分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①ジグソーパズルをペアで協力して作る。</p> <p>(場面絵を12～16分割したもの)</p> <p>②場面絵(完成したパズルの絵)を見て考えられることや想像できることを思い描く。</p> <p>③考えたり、想像したりしたことをグループで出し合う。</p> </div> <p>(2) 進行役の合図で始める。</p> <p>①ペアで作り考える。〈5分〉</p> <p>②グループで出し合う。〈5分〉</p> <p>3. グループで出た意見を紹介しあう。【6分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>○ある場面だけで判断して困った経験があるか振り返ってもらい、その体験を紹介してもらおう。</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px solid black; border-style: dashed; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ある場面だけで判断して困った経験はないか。 ・特定の見方や考え方だけではなく、多様な見方や考え方をしようと努力することが必要である。また、子どもが遭遇したその時の状況がつかめるように子どもの話をしっかり聴くことも必要である。 </div>





【プログラム14:

わたしの考え、あなたの考え

～いろいろな考えを聞いてみよう～】

☆ねらい：子どもに起こるであろう問題について4つの立場に分かれて話し合う活動を通して、いろいろな考えや対応の仕方があることを知り、これからの子育てに役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	いろいろな考え
時 間	20分
人 数	何人でもできるが、10人以上が望ましい。
活動形態	全体で動く、やや広めの場所が必要（教室でもよい）
準備物	○コーナーのカード ・「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のカードを1枚ずつ。 （カードは会場の4隅に掲示する。）
主な活動	①4つのコーナーをする。 ②お互いの考えを紹介しあう。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○出題内容に気を付ける。 ・生徒指導を考慮した問題づくりや子育てに関係がある問題づくりをする。 ・正誤がはっきりしている問題は避ける。 ○場所の広さや安全面に配慮する。
備 考	○会場での移動が難しい場合は、4～5名のグループを組み、机上で行うこともできる。 （机上に4つのコーナーを作り、出題に合わせて、自分のコマを動かし、理由を紹介し合う。）
スタート編との 関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム14 :

わたしの考え、あなたの考え

～いろいろな考えを聞いてみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○いろいろな考え
17分	全体	2. 4つのコーナーを行う。【14分】 (1) 方法を知る。〈1分〉 ①例題を聞き、どう思うか判断する。 ・「自分の考えで動く」ように指示する。 ②「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のどれに自分の考えが近いかを考え、該当するコーナーへ移動する。 ③同じコーナーにいる人同士で簡単な自己紹介をする。 ④なぜそこに動いたか、理由を他のコーナーの人に紹介する。 ⑤再び同じ題で考える。移動したい人は別のコーナーへ行く。意見が変わらない人はそのままでもよい。 ⑥①～⑤を繰り返す。
	全体	(2) 進行役の合図で始める。〈13分〉
	全体	3. 「特に印象に残った意見」や「もっと聞きたい意見」などを紹介する。 【3分】
2分	全体	4. まとめ【2分】 [まとめのポイント] ・物事の考え方には、1つだけでなく多様な考え方がある。 ・自分の考えと異なるものであっても、理由を聞いたり違いを考えたりすることで、自分が気付かなかったことに気付くことができる。 ・いろいろな考え方を知ること、自分の考えの幅が広がり、子育てに対しての自信も高まる。 ・「多様な考え」も大事だが、「是々非々」の考えも大事である。何でも「多様な考え」でOKというわけではない。

[4つのコーナー：例題]

練習：「わたしは、ごはんとパンでは、ごはんの方が好きだ。」

- ①：学校が休みの日は、朝、ゆっくり起きてもよい。
- ②：子どもの友だちは、男女を問わず、どちらもいた方がよい。
- ③：子どもの嫌いな食べ物は、家庭では、無理して食べさせなくてもよい。
- ④：子どものおこづかいは月額制がよい。
- ⑤：子どもが自分から進んでお手伝いをしたら、おこづかいをあげてもよい。
- ⑥：テレビやゲーム、漫画を読む時間など、家庭で必ず決めた方がよい。

※例題は、学年の発達段階や学校の実態に応じて変える。

【問題づくりの留意点】

○学校の基本方針と異なる意見に偏らないように、生徒指導等を考慮した問題づくりをする。

例：携帯電話は保護者の判断で、学校にもってきてもよい。

↓

学校は子どもの携帯電話の持ち込みを基本的に禁止にしている場合で、「よい」に偏ったら、進行役はまとめるのに困る。